

## 大阪府立西浦支援学校 平成 27 年度 第 3 回学校協議会（記録）

平成 28 年 2 月 15 日（月）に開催しました学校協議会の要旨を報告致します。

協議会会長：加藤 美朗（関西福祉科学大学）  
協議会委員：鈴木 耕治（羽曳野市立西浦小学校 校長）  
辻本 榮一（西浦町会 総括区長）  
石本 悦二（支援センター はる センター長）  
智原 正行（社会福祉法人 向陽学園 理事）  
稲垣 範子（大阪府立西浦支援学校 PTA 会長）

### 1 開会

- ・配布資料の確認
- ・挨拶 校長 東野 裕治
- ・委員紹介 首席

### 2 報告・連絡

#### ① 学校教育自己診断について（首席）

- ・回収率 保護者 71% 教職員 100%

肯定的なご意見が 70%を越えたものが 44 項目中 18 項目、否定的なご意見が 30%を越えたものが 1 項目と、質問項目に対して肯定的なご意見が多くあった。中でも授業参観に関する項目、保護者への連絡帳や配布プリントに関する項目、個別の指導計画、個別の教育支援計画に関する項目は肯定的な意見が全て 80%を越えていた。

一方、「1-18 学校は、環境、国際理解、福祉ボランティア等について子どもの発達段階や実態に即して学ばせている。」、「3-5 学校での災害の備えが十分である。」、「1-15 児童会・生徒会活動は活発である。」などについて、分からないというご意見が 30%を越えたものが 15 項目あった。

また、否定的なご意見が 30%を越えた「2-19 学校のホームページをよく見る。」については、学校開校初年度という事で学校での細かな授業の内容や取り組みに関する説明不足や、学校運営、学校の施設・設備に関する事などについての周知不足を象徴する結果であったと考えている。この結果を真摯に受け止め、来年度以降は、ホームページを活用して本校の教育内容を外部へ発信し、保護者の皆様に学校の取り組みや教育活動の様子をご理解いただけるように改善を進めていく。

初年度ということもあり、たくさんの記述回答があったが、今回はその内の 3 つを取り上げ、「家庭訪問や懇談について」「情報発信について」「進路説明会などについて」のそれぞれについて学校として回答を載せている。

② 学校経営計画の自己評価について (校長)

- 1 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実と様々な連携による児童生徒の支援
  - ・指導案 シラバス 授業記録などのデータについて 情報管理規定を整備し、個人情報が多く記録されたデータを処理及び保管するための一定のルール作りを今後すすめる。
- 2 キャリア教育の充実
  - ・『教育実践マトリクス』について今年度の不具合部分を検証および改善する。来年度のマトリクスはHPに掲載済み
  - ・喫茶ルームは当初の想定以上の活用が見られた。
- 3 安全安心な学校づくり
  - ・危機管理マニュアルは完成しているが、保護者に向けた周知が不足した。
  - ・行事などで近隣の福祉施設との交流、連携はできた。
  - ・学校サポーター制度の取り組みについては未着手であったので、来年度取り組む。
- 4 専門性の向上及び人材育成
  - ・人権研修をはじめ、教員向け研修を多く実施したが、教員の満足感につなげることができなかった。ニーズに適した研修計画をたてていく。
  - ・メンター制、OJTなど実施したが、経験の少ない教員が多い中、ロールモデルを提示することができなかった。また校務分掌のチーム制についてなじみがなくうまく機能しなかったと感じている教員が多かった。

③ 進路状況について (支援進路部)

- ・高等部3年生の内定 進路決定の状況の報告 (1月末現在)
  - 施設・作業所 生活介護希望の生徒は実習に行き決定していている
  - 職業訓練校 1名決定
  - 就労 4名希望のうち1名決定
- 中学部3年生の進路状況
  - 25名のうち2名専修学校受験 2名高等支援学校受験 21名が本校高等部受検
- 小学部6年生の進路状況
  - 全員西浦支援中学部へ進学希望

### 3 協議 本校の「学校経営計画及び学校評価」について

- 1 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実と様々な連携による児童・生徒の支援
  - (2) 魅力的でわかる授業づくりのため、シラバス・指導案・授業記録等をデータとして蓄積し、常に授業改善に取り組む。
- 2 キャリア教育の充実
  - (1) 卒業後を見通し、小・中・高等部を同じ物差しで見られる新たなスケールの作成と一貫性のあるキャリア教育の構築をめざす。  
※キャリア教育のシラバスを整備し、キャリアプランニングマトリクスを毎年練り直し、西浦支援マトリクスを発信。
  - (2) 地域のリソースを有効に活用することで作業学習や職業コースの授業の充実を図り、関係機関や商業施設、地域事業所等と協働した事業の創設をめざす。
  - (3) 放課後の活動や校外活動の充実を通じて、自分に自信を持ち、のびのびと意思を表現できる児童生徒の育成をめざす。
- 3 安全安心な学校づくり
  - (1) 準備した防災マニュアル等を実態に合わせて毎年改善し、校内体制や校内環境を整備する。
- 4 専門性の向上及び人材育成
  - (1) 障がいに応じた指導法のみならず、人権教育やICT活用、最新福祉事情等の研修を計画的に行い、支援学校教員としての専門性の向上をめざす。
  - (2) 経験の少ない教員の教員力向上のため、メンター制など効果的な校内支援制度を構築するとともに新たな校務分掌の在り方で有効かつ効率的な組織運営をめざす。
  - (3) 公開授業や研究授業を積極的に活用するとともに地域支援学校間での相互研修システムの構築をめざす。

#### 1 - (2) 「授業記録」について

個人情報 の適正な管理に留意して、保存および廃棄のルール作りを検討しながら授業記録を蓄積していく。

#### 2 - (1) ~ (3) 「キャリア教育の充実について」

小学部でのキャリア教育については、挨拶やコミュニケーションなどを重視している。

小中高でつながりのあるシラバスの整備をしていく。小学部の早い段階からキャリア教育の研究を具体的に行っていく。

「放課後の活動について」

来年度からクラブ活動を始めるべく準備をしている。

3－（１）「防災関係の取り組みについて」

防災に関しては保護者との連携が重要である。児童生徒の受渡しの手続き、学校に残った際の連絡の取り方、起きた際の教職員の対応はマニュアルが出来ている。今後は、訓練の様子を保護者にどうお伝えするのかを検討していく。

4－（１）～（３）「専門性の向上及び人材育成について」

チームティーチングでお互いがお互いの授業を見合うことで取り組んでいく。

「平成 28 年度学校経営計画について」

- |  |
|--|
| <p>1（３） 不足している教材や機材等を充実させ、多様な授業展開や指導を可能とする環境を整えることで、児童生徒の生きる力の向上を支援していく</p> <p>3（２） 地域との連携で、互いに声をかけ合えるような防犯・防災体制の構築をめざし、児童生徒が地域とかかわりながら成長できる環境を作る。</p> <p>ア 最寄駅や近隣の福祉施設などと、環境美化のコラボレーションや児童生徒との積極的な交流を推進する。</p> <p>イ 学校への興味関心を持ってもらうことで、支援ボランティアなど学校へのサポーターを増やす。</p> <p>4（４） 地域支援室を積極的に活用し、地域及び本校の支援教育力の向上と人材育成をめざす。</p> |
|--|

1（３）教材の蓄積をめざし、校長裁量費を有効に使えるように追加した。

3（２）「児童生徒が地域とかかわりながら成長できる環境を作る」と文言を変更している。

4（４）地域支援室を積極的に活用できるようにする。来年度は相談日を20日ほど考えている。本校は経験の少ない教員の数が多いので校内支援も充実させたい。夏休みに地域の学校向けの相談を増やす事が出来ればと考えている。

また、例えば地域の方に今後、園芸などで畑の指導や喫茶ルームを利用していただくことも考えている。

閉会